

参考資料 8 サンゴ礁関連国際機関

AGRRA (Atlantic and Gulf Rapid Reef Assessment)

AGRRA(大西洋及びメキシコ湾簡易サンゴ礁影響評価プログラム)

<http://www.coral.noaa.gov/agra>

国際的な科学者や管理者が協力して、カリブ海とメキシコ湾のサンゴ礁の地域的状況を把握するために行われている、簡易評価手法を用いたモニタリングプログラム。AGRRA は、サンゴ被度、死亡率、加入量、大型海藻の分布指標、ウニ類の密度、指標魚類の数と大きさを目視で観察することにより、サンゴ礁の健全度についての基礎情報を把握する。AGRRA では 1998 年以来 500 のサンゴ礁で調査を行い、データベースを作成している。

AIMS (Australian Institute of Marine Science)

AIMS(オーストラリア海洋科学研究所)

<http://www.aims.gov.au>

熱帯の海洋研究を行うオーストラリアの国立研究機関であり、その研究成果は民間や政府の環境管理に広く利用されている。過去 25 年間に、サンゴ礁やマングローブ生態系、海水循環に関する高度な調査研究を行い、学術的な報告だけではなく、地域で利用するためのフィールドガイドや図鑑などを出版している。主なテーマは、熱帯海洋資源の持続可能な管理のための、モニタリング手法の開発や実施である。

CARICOMP (Caribbean Coastal Marine Productivity Program)

CARICOMP(カリブ海沿岸海洋生産性プログラム)

<http://doe.8m.com/doewebsite/CARICOMP.html>

このプログラムは、IOC-UNESCO が1986年に設立した、カリブ海周辺の25の海洋研究所と海洋公園をつなぐネットワークであり、比較的攪乱の少ない場所において、サンゴ礁や海藻及びマングローブ生態系の構造の変遷と役割について、標準化した手法による長期モニタリングを行っている。ジャマイカのキングストンにある西インド洋大学に設置されたカリブ海沿岸データセンターで、これらのモニタリングで得られたデータを保管、公開している。CARICOMP では現在、18 개국(バハマ、バルバドス、ベリーズ、バーミューダ、ケイマン諸島、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和国、ハイチ、ジャマイカ、メキシコ、オランダ領アンティレス、パナマ、プエルトリコ、トリニダード・トバゴ、アメリカ、ベネズエラ)の研究機関が連携している。

CI (Conservation International)

CI(コンサベーション・インターナショナル)

<http://www.biodiversityscience.org/xp/CABS/home>

CI は生物学的多様性を保護するための、フィールドでの活動を主体とした国際的な環境保護組織である。4大陸の30以上の国において、科学や経済学、政策に係わる活動を行い、地域社会の参加によって、地球上で最も多様性の高い地域の植物及び動物の多様性の保全を行うことを目指している。海洋簡易影響評価プログラム(RAP: The Marine Rapid Assessment Program)では、陸域や淡水域の生物多様性の高い地域と同様に、海洋での生物多様性を評価するための調査をおこなっている。

CORAL (The Coral Reef Alliance)

<http://www.coralreefalliance.org/>

CORAL(「The Coral Reef Alliance サンゴ礁同盟」の略)は、世界各地のダイビング関係者やサンゴ礁保護区管理者、サンゴ礁保全にたずさわる人々からなる会員に支えられた非営利組織であり、カリフォルニアに拠点を持つ。CORAL では、サンゴ礁管理における能力養成を支援するため、研修や必要な教材の提供を行っている。また、地域主体の組織に対する資金援助も行っている。さらに、CORAL では、啓発活動において ICRIN のような外部組織へのプログラムの提供も行っている。

CORDIO (Coral Reef Degradation in the Indian Ocean)

CORDIO(インド洋サンゴ礁減少対策プロジェクト)

<http://www.cordio.org>

CORDIO は、インド洋において起った 1998 年の大規模な白化とそれに続くサンゴ礁の減少に対し、生態学的及び社会経済学的な調査を開発した、学際的な地域プログラムであり、ICRI の傘下にある運営機関の一つである。このプロジェクトは、1999 年にオランダの信託基金から始まり、スウェーデン政府の ODA である Sida(スウェーデン国際開発支援)と世界銀行の支援を受け受けている。ICRI の一つのユニットともなっているこのプロジェクトは、1998 年の大規模なサンゴの白化の生態学的及び社会経済学的影響を調査することを目的としている。CORDIO は、GCRMN の東アフリカ拠点として、インド洋周辺の国々のモニタリングに関する調整を行っている。対象とされる地域は、ケニア、タンザニア、モザンビーク、マダガスカル、セーシェル、コモロ諸島、モーリシャス、モルディブ、インド及びスリランカである。

CRC Reef (Cooperative Research Center for the Great Barrier Reef)

CRCリーフ(グレートバリアリーフ共同研究センター)

<http://www.reef.crc.org.au>

CRC リーフは、情報を主体としたサンゴ礁管理者と研究者及び民間企業の協力関係である。産業と管理が持続的に行われながら生態系の質が維持されるよう、サンゴ礁の保護、保全及び修復のための調査研究を実施することにある。CRC はオーストラリアのタウンズビルにあり、研究者(AIMS、ジェームズ・クック大学、クイーンズランド州政府第 1 次産業課)と観光産業(海中公園観光協会)、遊漁産業(サン・フィッシュ・クイーンズランド、クイーンズランド水産物協会)、管理者(グレートバリアリーフ海中公園局)、そして非政府組織(グレートバリアリーフ研究基金)の共同事業である。

GBRRF (Great Barrier Reef Research Foundation)

GBRRF(グレートバリアリーフ研究基金)

<http://www.barrierreef.org>

この基金は、世界のサンゴ礁の持続と保護、責任ある利用及び管理のため、サンゴ礁に関する世界第 1 級の研究者を育て、研究を促進するために設立された。GBRRF は、非営利の非政府組織であり、調査研究に対する財政支援を行うことで、サンゴ礁の直面する攪乱に対する現実的な解決を推進している。

GCRMN(Global Coral Reef Monitoring Network)

GCRMN(地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク)

<http://www.gcrmn.org>

GCRMN は ICRI のプログラムの一つであり、サンゴ礁モニタリングを実施する人々や政府機関、研究機関、NGO 及びサンゴ礁の利用者によるネットワークである。持続的な利用のためのサンゴ礁のモニタリングを推進している。

GCRMN は、IOC-UNESCO、IUCN、世界銀行、UNEP の 4 つの国際機関からの資金提供を受け、科学技術諮問委員会(STAC)の指導の元に戦略計画にのっとり運営される。

GCRMN では 1998 年以来、地球規模のネットワークを通じて、2 年に 1 回世界のサンゴ礁現状報告を発行している。

GEF (Global Environment Facility)

GEF(地球環境ファシリティ)

<http://www.gefweb.org/>

開発途上国の地球環境保全を支援するために、贈与または超低利融資で途上国に資金を供与する多国間援助の仕組みであり、1991 年に発足した。

世界銀行、UNEP、UNDP の 3 機関によって運営され、地球温暖化の防止、種の生物多様性の保全、国際水域汚染の防止、オゾン層の保護の 4 分野を対象とする。3 年間、コアファンドとして約 3.8 億ドルの資金でパイロットプログラムが実施され、115 件のプロジェクトが決定された。また、94 年からは 20 億ドル強の資金で本格実施(フェーズ1)が開始されている。

ICRAN (The International Coral Reef Action Network)

ICRAN (国際サンゴ礁行動ネットワーク)

<http://www.icran.org>

ICRANは、ICRIの行動の呼びかけに応じて開発された一般大衆と民間企業をつなぐ協力関係であり、国連基金からの様々な支援によって2001年に立ち上げられた。ICRANの戦略(<http://www.unep.ch/coral/icranpln.htm>)には、既存のサンゴ礁保護及び管理における科学的、経済学的及び社会学的情報の交換と共有、生計の代換案、研修及び能力養成を含んでいる。

ICRI (International Coral Reef Initiative)

ICRI (国際サンゴ礁イニシアティブ)

<http://www.icriforum.org>

1994年に発足した、サンゴ礁の保全と持続可能な利用に関する包括的な国際的枠組み。1) 沿岸管理、2) 能力養成、3) 研究・モニタリング、4) 再検討が活動の4本柱となっている。

1995年にフィリピンでICRI会合が開催され、「行動の呼びかけ」「行動の枠組み」を採択。その後の活動の指針とする。

事務局と企画調整委員会(ICRI-CPC:ICRI Coordination Planning Committee)で運営され、1995年から1996年の第1期事務局はアメリカ、1997年から1998年はオーストラリア、1999年から2000年はフランス、2001年から2002年はスウェーデン・フィリピンの共同事務局、2003年から2005年はイギリスとセーシェルの共同事務局が勤めている。2005年から2007年は、日本とパラオが共同事務局を招致する。

ICRIN (The International Coral Reef Information Network)

ICRIN (国際サンゴ礁情報ネットワーク)

<http://www.coralreef.org/>

ICRINはサンゴ礁の普及啓発活動開発プログラムであり、非営利の地域グループや教育関係者、サンゴ礁保護区管理者に対して教材や人材を提供してそれらの地元の活動を支援する。また、インターネットを通して一般や政策決定者に一般的なサンゴ礁の情報も提供している。ICRINはICRAN及びICRIの出先組織である。

IOC-UNESCO (The Intergovernmental Oceanographic Commission)

IOC (政府間海洋学委員会)

<http://ioc.unesco.org/iocweb/default.htm>

IOCは、海洋資源の特性と持続性についての海洋科学調査をおこなう国際組織である。IOCとUNEP、IUCN、World Meteorological Organization (世界気象協会)は、1991年にサンゴ礁についての国際特別調査チームを編成し、世界のサンゴ礁をモニタリングするための手法と計画を検討した。この調査チームはGCRMNの前身となり、1995年にフィリピンのドゥマゲティ市で行われたICRI会議の後、IOCとUNEP、IUCN、世界銀行、生物多様性条約(CBD)が資金提供組織となってGCRMNの活動が始まった。GCRMNは、IOCを通じてGlobal Ocean Observing System (地球大洋観察システム)の一部として位置づけられ、サンゴ礁の健全度とその資源に関するデータを定期的に(2年に1度)公開する。

IUCN (The World Conservation Union)

IUCN (世界自然保護連合)

<http://www.iucn.org>

IUCNは1948年に設立された、政府機関やNGOによる自然保護を目的とする国際機関である。現在、140カ国、980名の参加者により組織されている。IUCNは特定の種や多様性保護、生息地と天然資源の管理に焦点を置いたプロジェクトチームや活動グループにおける6つの委員会、10,000人の専門家からなる。GCRMNの資金提供組織の一つであり、現在のGCRMN管理グループの座長を務めている。

ISRS (The International Society for Reef Studies)

ISRS (国際サンゴ礁学会)

<http://www.uncwil.edu/isrs>

国際サンゴ礁学会は1980年に設立され、現在60ヶ国、1000人以上の会員からなる国際的な学会である。学術雑誌「Coral Reefs」とニュースレター「Reef Encounter」を発行し、4年に一度大会(国際サンゴ礁シンポジウム:International Coral Reef Symposium)を開催する。第10回大会は2004年に沖縄で開催された。

Reef Check

リーフチェック

<http://www.ReefCheck.org>

リーフチェックは、大学を拠点にした環境保護組織として、サンゴ礁における地域主体のモニタリングと管理を、地球規模で推進するために設立された。現在60カ国以上で活動が行われており、サンゴ礁の危機的状況といかにしてそれを止めるかについて一般の人々を教育すること、研究者と協力して定期的にサンゴ礁をモニタリングするボランティアチームのネットワークを構築すること、科学的な調査、サンゴ礁における諸問題を解決するために研究者とNGO、政府機関、民間企業との協力関係を調整すること、残されたサンゴ礁を保護し、攪乱を受けた場所は回復させるために、生態学的な調査と経済的な持続性を持った解決策による地域の活動を推進することを活動目的としている。GCRMNの正式な協力機関として世界各地でモニタリングや研修を実施している。本部はカリフォルニア大学に設置されている。

UNDP

UNDP (国連開発計画)

<http://www.undp.org/>

国際連合の実施する途上国技術協力活動を推進する資金提供機関として、1966年に設立された。

UNDPの任務は国連システムを通じ、途上国のあらゆる経済的、社会的分野の開発促進のため、技術援助を行うことにある。

UNDPは国連総会、経済社会理事会の管轄下に置かれる国連組織であり、管理理事会と事務局から構成され、事務局本部はニューヨークに設置されている。

また、国連総会の委託により各種の特別基金・計画の管理を委任されている。環境問題では、地球環境ファシリティ(GEF)をUNEP及び世界銀行とともに運営している。

UNEP (United Nations Environment Programme)

UNEP (国連環境計画)

<http://www.unep.org/>

1972年にストックホルムで開催された国連人間環境会議で採択された「人間環境宣言」「国連国際行動計画」を実施するための機関。UNEPの目的は既存の国連諸機関が実施している環境に関する諸活動を総合的に調整するとともに、まだ着手されていない環境問題に対して国際協力を進めていくことにある。

UNEPは、管理理事会、環境事務局及び環境基金から成り立っている。管理理事会は国連総会で選出される58か国により構成され、環境事務局の本部はケニアのナイロビに設置されている。

UNEP-Coral Reef Unit

UNEPサンゴ礁ユニット

<http://coral.unep.ch/crunite.htm>

UNEPは、サンゴ礁のこれ以上の減少を防ぐための、包括的なサンゴ礁プログラムを展開しており、その担当がサンゴ礁ユニットである。このユニットの活動は、UNEPの一組織であるUNEP世界保護モニタリングセンター(WCMC)の地域海洋プログラムを通して、CBDやICRIなどの多国間の環境に関する合意とも連携しながら実施される。

UNEP-WCMC (World Conservation Monitoring Center)

WCMC(世界保全モニタリングセンター)

<http://www.unep-wcmc.org>

UNEP-WCMC では、サンゴ礁マッピング、海洋保護区についての地球規模データベース、サンゴ及び観賞魚貿易のモニタリング、サンゴの病気や白化等攪乱についての地球規模の分布などの取り組みを行っている。「World Atlas of Coral Reefs(サンゴ礁の世界地図)」はその主な成果物の一つである。海洋保護区についての地球規模データベースには、世界の 3600 カ所の保護区に、680 のサンゴ礁が含まれている。UNEP-WCMC はまた、協力機関である WorldFish Center や WRI、GCRMN を通して、インターネットを使ったサンゴ礁情報へのアクセスシステムの開発にも関わっている。

World Bank

世界銀行

<http://www.worldbank.org/>

正式名称は「国際復興開発銀行(IBRD)」。1945 年に発効した国際復興開発銀行協定に基づき国連内の機関として設けられた。戦争により破壊された加盟国の復興及び開発を援助するために、資金の貸付や民間貸付に対する保証を行っている。

World Bank- Environment Department

世界銀行 - 環境部

総合的な環境の持続性を維持するために設立された世界銀行の中の一部門。環境のリスクに対する脆弱性を抑え、人々の健康と生活を向上させる事を目的としたプログラムを推進する。世界の数百万人の人々に影響を与えると考えられるサンゴ礁の保護と持続的利用もこのテーマに含まれている。

WorldFish Center (former ICLARM)

ワールドフィッシュ・センター(旧「ICLARM(国際水生生物資源管理センター)」)

<http://www.worldfishcenter.org>

1977年に設立された非政府、非営利の国際機関であり、ICLARMとして知られていた。開発途上国における食品安全と貧困の根絶に取り組む国際機関。水生生物資源と環境の保全を通して、貧しい人々に利益を与える事を目的としている。GCRMN のモニタリング活動を支援するため、地球規模のサンゴ礁データベースである ReefBase を開発、運営している。本部はマレーシアのパナンにある。

WRI (World Resources Institute)

WRI(世界資源研究所)

<http://www.wri.org/reefsatrisk>

WRI は、サンゴ礁の効果的な管理を進めるために資源管理者に提供することを目的とした、サンゴ礁に対する攪乱に関する一連の地域研究プロジェクトを実施している。プロジェクトでは地域の協力機関と密接に連携をとり、1998年に発行された「Global Reef at Risk(地球規模の危機に瀕したサンゴ礁分析)」に基づいて、各地域でのより詳細な調査が実施されている。最初の地域報告書である「Reefs at Risk in Southeast Asia(危機に瀕したサンゴ礁、東南アジア編)」は2002年に発行された。現在のプロジェクトは「Reefs at Risk in Caribbean」であり、報告書は2004年に発行予定である。プロジェクトで得られたデータは、GISを含み全てインターネットのホームページで閲覧できる。

WWF (World Wide Fund for Nature or World Wildlife Fund)

WWF(世界自然保護基金)

<http://www.wwf.org>

WWF は、世界で最も大きく歴史の古い自然保護組織で、世界中に 96 カ国のネットワークと 470 万人の支援者を持つ。WWF の Ocean Rescue Initiative(海洋救助イニシアティブ)は、冷水域のサンゴ群集を含み、世界のサンゴ礁の保護を目指している。WWF は今後 10 年の間に 100 個の海洋保護区において、その管理体制を作り上げ、あるいは整えることを目標としている。

※記載情報は、『Status of Coral Reefs of the World: 2002』(Australian Institute of Marine Science)から主なものを抽出した。